

癒しの空間づくり

「I様は御年90歳になられますが日々元気に過ごされています。しかし、このところ物干し竿に手が届かないなど、洗濯が大変になった事にお悩みでした。そこでリンナイ製ガス衣類乾燥機「乾太くん」をご提案し、設置することとなりました。通常、設置位置は洗濯機の上が多いですが、そこだとI様の手が届かないので、横に設置台を制作することでご対応いたしました。



I様邸の設置



雨の日も洗濯が楽しい

後日お話しを伺うと、乾燥機に入れるだけで乾くので洗濯が楽になった、雨の日でも洗濯できる、洗濯物がたまらないなど、もっと早く設置すればよかったと大満足でした。ガス乾燥機はガスならではの高温乾燥、低コストが特徴です。短時間乾燥なので余暇が増える、高温なので生乾きの悪臭がほぼ出ないなどメリットがたくさんあります。これからの季節、洗濯物が乾きにくくなってきました。皆様のご自宅でも活躍する事間違いなしです。是非一度ご検討されてはいかがでしょうか。



施工担当 中根

新入社員紹介

今年八月にご縁を頂き、お世話になることになりました。事務の酒井と申します。趣味は読書で、森博嗣さんの小説をよく読みます。動物も大好きなので、子供たちが大きくなったら、大型犬を飼いたいと思っています。

皆様にご暖かいご指導を頂きながら、元気に勤めております。微力ではございますが、一生懸命頑張りますので、今後ともどうぞ宜しくお願い申し上げます。



ふるさと紀行

佐白山「笠間城跡」

笠間城は、別名を桂城とも言う城で、続日本百名城に選ばれている。標高は205mほどの山城で、茨城県笠間市佐白山(さしろさん)に築かれたていた。佐白山はかつて「三白山」と呼ばれていたそうで、その由来は、三匹の白い動物、神様のお使いの「白い雉」、「白い鹿」、「白い狐」が住んでいる山ということから「三白山」と呼ぶようになったと言われている。茨城県を代表する城といえは水戸城や土浦城、小田城といった土塁や空堀を巡らせた「土造り」が主流であった。その背景として、関東地方は採れる石が少なく、関東ローム層というツルツル滑る粘土質の土壌であったため、守りに堅い城を築くことができたからである。しかしながら、笠間城は茨城県内だけでなく、東日本でも希少な石垣が積まれた城である。笠間城は、天正18年(1590)豊臣秀吉による「小田原攻め」まで、笠間氏が約380年にわたり代々城主を勤めていた。笠間氏は、北条氏に味方していたが滅亡した後は宇都宮氏の家臣が入城した。

その頃の笠間城は、山の地形を利用し土塁や堀切を設けた、いわゆる中世城郭であったが、慶長3年(1598)に蒲生郷成(がもうさとなり)が入り、出身地の近江国(滋賀県)の石材技術をもつ石工らを用い、登城路の修復や天守曲輪の整備を実施した。そして、現在も遺構が残されている近世笠間城の骨格へと姿を変えていった。その後、江戸時代の笠間藩主はめまぐるしく変わっていくこととなるが、1652年には真壁城から浅野長重が5万3千石で入封し、1645年の浅野長直の時に、播磨・赤穂城に転封となる。後の赤穂浪士に繋がっていく。笠間城の麓には、播磨国赤穂藩の筆頭家老であった大石内蔵助の屋敷跡・大石邸跡がある。江戸時代には松井松平家、小笠原家と城主が代わり、天領の期間を経て、戸田松平家、浅野家が入城。8万石で入った牧野家が最後の藩主となり、延享4年(1787)から9代に渡りこの地を治め、藩政の改革や藩校「時習館」を創設した。天守は明治6年(1873)の廃城令を機に取り壊されているが、笠間城本丸の八幡台にあった物見櫓は、1880年(明治13)に真浄寺に移築復元され現存している。